

釧路地区 教育経営研究会

- 1 趣 旨 学校運営上の諸問題について、全道の情勢及び釧路地区の実情を交流し、道小・道中校長会の活動に反映させ、もって各学校の経営充実に資する。
- 2 期 日 令和3年8月20日（金）
- 3 会 場 オンライン開催（新型コロナウイルス感染症感染防止対策による）
- 4 主 催 釧路市小中学校校長会（主管） 釧路校長会
- 5 後 援 北海道教育庁釧路教育局
釧路管内町村教育委員会連絡協議会
釧路市教育委員会
- 6 参加者 釧路管内小中学校長会員他(約90名)
- 7 日 程 13時 開会式：主催者挨拶・来賓役員紹介
13時10分 来賓役員による教育情勢説明・質問回答
13時40分 提言A発表（標茶町）
14時 休憩
14時10分 提言B発表（弟子屈町）
14時30分 質疑応答（チャットによる質問受付）
14時50分 閉会の言葉
- 8 来 賓 道中会長 三浦 利章 氏（千歳市立千歳中学校） （オンライン参加）
道中対策部幹事 坂本 征人 氏（妹背牛町立妹背牛中学校） （オンライン参加）
道小研修部幹事 割石 隆浩 氏（札幌市立新川小学校） （オンライン参加）
- 9 来賓役員による教育情勢説明・質問回答
 - ・定年延長について
 - ・小学校高学年における教科担任制について
 - ・デジタル教科書について
 - ・一部教科の標準授業時数の学校裁量について
 - ・学力調査等のC B T化について
 - ・G I G Aスクール構想に基づく1人1台端末の利活用、持ち帰りについて
 - ・1年単位の変形労働時間制について
 - ・その他
- 10 提言A発表（標茶町）

学校における働き方改革に関する勤務実態と職員意識を活かした実効性ある取組に向けて
（提言者）標茶町立磯分内小学校長 松永 和弘

（1）提言の概要

標茶町の現在の取組実態と勤務管理表や放課後の職員の活動状況を調査し、結果から見える実態をもとに北海道アクションプラン（第2期）を推進するあらたな視点を明確にする。

 - ① 現状の把握～勤務時間の実態調査、勤務や働き方に関するアンケート
 - ② 調査結果から明らかになったこと～勤務時間や業務について、働き方の意識について
 - ③ 町内各校の取組
 - ④ 校長の役割
 - ⑤ まとめ

(2) 参加者からの声

- ・働き方改革の事例として大変参考になった。データに基づいた発表は説得力があり、今後いろいろと活用させていただきたい。
- ・タイムマネジメントの意識化と併せ、個の働き方スタイルの見直しや職員室内の雰囲気など様々な観点から重点化を図り、具体的に進めていくことが大切であると思った。
- ・校長として、業務の負担軽減を図る具体的な方策を教職員と共に知恵を出し合い、実践していく意識がさらに高まった。
- ・ICT活用に伴う授業準備等でどう効率的に質を高めていくかが鍵になるのではないか。また、中学校では部活動の取組を考えていかなければと改めて感じた。

11 提言B発表（弟子屈町）

「地域連携」と「学校段階等間の連携・接続」を一体的に捉え、その推進の在り方を探る

（提言者）弟子屈町立川湯小学校長 中岡 美緒

(1) 提言の概要

弟子屈町における地域連携と学校段階等間の連携・接続の現状を整理し、今後の連携の在り方を明確にする。

- ① 背景と法的根拠～地域連携、学校段階等間連携、北海道の状況
- ② 弟子屈町の取組～町教委主導による幼小中高連携事業、校長会における小中高連携、中学校区における地域連携と幼小中高連携
- ③ 今後に向けて～成果、課題、今後に向けて

(2) 参加者からの声

- ・弟子屈町の特色がよくわかる提言だったと思う。
- ・それぞれの地区で地域連携や他校種連携が工夫されており、大変参考になった。
- ・幼小中高連携の長い積み重ねに地域の一体感を見せてもらった。釧路市の場合、中学校区でどのように取り組むのかを考える上で参考になった。
- ・魅力ある連携がとられていると思った。また、町内の地区ごとのCSが今後どのように発展していくのかも楽しみだ。
- ・発表の「今後に向けて」にあった高等学校卒業時をゴールとした「目指す生徒像（大人像）」を共有することは、とても大切なことだと感じた。